



片瀬山防災だより

第2号 2006年12月15日

防災会が目指していること：

☆各家庭での防災の備え ☆近隣助け合いの防災づくり ☆片瀬山全体での防災づくり
いざという時、ご近所とのつながりは大切です。一番良い方法を皆で考えましょう！

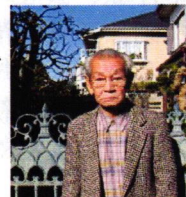
その時私はどうする：

ぐらっと来た、大きい、立ってられない、本棚がゆっくり倒れる。表に出る、隣人たちも飛び出してくる。振り返ると壁に大きな亀裂、倒壊はしていないが中に入れない。下の方で火災が発生している、人の安否確認だ、この時間誰がいるか、年輩者の確認をしよう。そうだ防災会だ、片中には行かなくては、片中へ、片中へ……。はっと目が覚めた。19年元旦、こんな初夢を見るかも。(防災会会長代行・岩本義久)



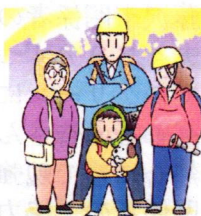
遠い親戚より向う三軒両隣：

阪神、中越大地震の折り、初動の災害救助で一番力を発揮したのが隣近所の助け合いだったと言われています。新しく発足した「片瀬山防災会」がいま重点項目に掲げようとしている「近隣ネット」も個人情報との兼合いから種々研究課題があるかと思いますが、今後広く片瀬山住民の皆さんのご意見を伺ったうえで、最良の着地点を見出して頂けたらと思います。(1丁目 田島正蔵)



防災訓練に参加して思うこと：

避難する時、各個人・家庭では先ずは自分の身の回りの重要なものを持ち(出来れば帽子、靴、手袋を着用)避難場所(片瀬中学)まで声を出し合いながら、ご近所の方々を気遣い、急いで行くことの重要性を感じました。到着後は顔見知りの人々の安否を確認して、次の段階に進めるように普段からご近所の方々との話し合い、お年寄りやお子様のいらっしゃるお宅等、気配りをして、皆で力を合わせ、協力していく事が大切と思いました。(2丁目 黒川孝子)



整理整頓と安全チェック：

今にも起こるかも知れない大きな地震。自分たちの命を守るにはどうしたらいいのか。ドアや窓の近くに倒れて通路をふさぎそうな物はないか。高い棚の上に重い物は載せていないか。おもちゃや本が床に散らかっていると、いざという時に、思わぬ怪我をします。日頃から整理整頓も大切。普段の生活の場に、どのような危険な物があるか、うちではどこが一番安全なのか、家族でチェックしてみたらどうでしょうか。(3丁目 長島 章)



防災はご近所と一緒に：

防災の話の中に自助70、共助20、公助10と言う言葉をよく聞きますが、これは大災害発生時の初期対応は、自分自身か近所の助け合いでやりなさい、という意味です。大地震等が発生すれば誰もが被災者になる可能性があり、同時に、ご近所の助けを受けることも十分予想されます。お互い、ご近所は大切な存在です。平素よりご近所とはいい関係を作っておく必要があります。そしてお互いに情報を共有し、さらには緊急時の対応等のお話し合いが出来れば、災害時の大きな備えとなります。(4丁目 吉田俊昭)



「大丈夫ですか！」の一声：

災害がおきた時、近所の方への「大丈夫ですか！」の一声が大きな力になります。そのような時に必要な近隣ネットづくりが始まります。

日ごろから防災活動に関心をもち、いざという時にスムーズに行動できるよう皆様と共に協力体制を構築していきたいと思ひます。被害を最小に食い止めるためにも、知恵を出し合つて対策をたて行動しましょう。(5丁目 宇田川ルイ子)



避難生活楽しみましょう：

決して災害が発生してくれと願っているわけではありません。

家族や家を失つてもそんなことを言えるのか？とお叱りを受けるかも知れませんが、辛く苦しく悲しい場面でも「楽しく生きなさい」と娘に常々言っています。

「美味しい非常食とお洒落な防災用品で家族皆が無事」そんな我侘な事を個人的には考えています。(片瀬山駐在・佐武隆一)

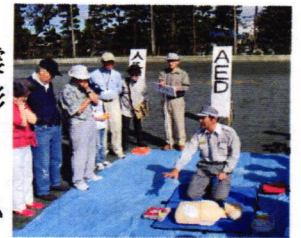


防災訓練報告：

昨年に引き続き10月7日(土)、片瀬山地区独自の防災訓練を実施しました。前日の大雨にも関わらず、水はけのよい片中グランドのおかげで晴天のもと起震車体験、濃煙体験、救急救護、バケツリレー、仮設トイレ組立、炊出しなど多彩な訓練に各自治会から凡そ220名、中学生も150名が参加。

4500人の片瀬山地区としては参加者が少ないのは大きな課題。

来年は11月初旬を予定、参加したくなる企画を考えますので、ご期待ください(防災会災害対策グループ・佐藤英樹)



地域防災対策講座・わかやぎ会の皆さんへ出前講座：

10月27日(金)片瀬山市民の家で防災講座が開かれました。

藤沢市関係者の挨拶・説明の後、防災会の広報グループ・仁科と災害対策グループ・佐藤が夫々30分ずつ「家庭で備える防災対策」、「近隣助け合いと地域の備え」を題材にしてスクリーンに映された写真を参考にしながら、説明をしました。

高齢者の皆さんは自分の身を守ること、地域の備えはどうなっているのかなど、熱心に皆で勉強しました。この様な小グループでの講座は有効な啓発活動の一つです。

関係者のご協力に感謝いたします。(防災会広報グループ・仁科修二)



防災知識を貯めよう！ 防災の知恵シリーズ②：

防災に関しては、思い込みで認識されていることも多いものです。

日頃、それらの知識をきちんと確認・理解する機会を持つようにして下さい。

例えば「木造一階は原則として地震が来たら避難すべき、机の下に隠れる等の一時避難は建物倒壊時には無力」など。世代間のコミュニケーション、隣近所など地域間のコミュニケーションが希薄となっていることも近年の事件・事故・災害を増大させる背景の一つとなっていると思われます。

実際に地震などの広域災害が起きた場合、地方行政も被害者となっている可能性が高いので近隣相互の助け合いを考慮しておくべきです。関西大震災にて、当時自衛隊等の外部援助組織によって救出されたものは全体の19%のみ、残りの多くは隣近所での助け合いに拠るところが大きいとの報告もあります。

(2006年5月21日 防災システム研究所長 山村先生の講演会より抜粋)



編集後記：編集委員は本澤、青木、長島、鈴木、宇田川、佐藤、仁科です。各自治会からの寄稿で構成しました。年4回発行予定。ご協力をお願いします。



片瀬山防災会

発行：片瀬山防災会

〒251-0033 神奈川県藤沢市片瀬山3-22-9

電話0466-25-6739 ファックス25-2222 (岩本)